

公益財団法人 日本バレーボール協会
第4期・2013年度 事業報告書
(2013年4月1日～2014年3月31日)

1. 事業の概況

本会は2011年2月に公益財団法人に移行し、第1期が2月～3月の2ヵ月間、第2期は2011年4月～2012年3月、第3期は2012年4月～2013年3月、第4期は2013年4月～2014年3月です。以下、本年3月末迄の第4期事業概況を取り纏め、報告致します。

当期は6月に理事の改選があり、15名（定数：15名～20名）が選任されました。そして新理事会により羽牟代表理事・会長が選任され、業務執行理事につきましても変更がありました。その後、各本部長ならびに委員会委員が選任されました。

2013年11月に開催しました各大陸のチャンピオンが戦う、ワールドグランドチャンピオンズカップでは、全日本女子チームがロンドンオリンピックに続き銅メダルを獲得しました。更に、次世代を担う若い選手達も、6月にチェコで開催された第17回世界ジュニア女子選手権大会（U-20）において第3回大会以来の銀メダルを獲得、7月にロシアで開催された第27回ユニバーシアード競技大会では男子チームが銅メダルを獲得、10月にメキシコで開催された第1回世界U-23女子大会において銅メダルを獲得するなど、目覚ましい成果を挙げ、日本国民に夢や勇気、感動をお届けすることができました。

オリンピック終了後、2016年のリオデジャネイロオリンピックに向けて、強化体制の再構築を図ることとなり、強化事業本部長の下、新体制を構築し活動を開始し、眞鍋監督が率いる全日本女子代表チームは次年度イタリアにて開催されます世界選手権の出場権を獲得しましたが、ゲーリー・サトウ監督が率いた全日本男子代表チームは世界選手権の出場権を獲得することが出来ませんでした。その後、ワールドグランドチャンピオンズカップ等の成績を強化委員会にて慎重審議し、ゲーリー・サトウ監督につきましては、解任を決定いたしました。後任の監督につきましては、強化事業本部の審議に基づく推薦者、あるいは公募による選出をする事となり、理事会にて承認の上、天皇杯やV・プレミアリーグ等で優勝経験のある、パナソニック パンサーズの南部正司監督を監督に迎える事となりました。

強化事業本部の組織改正に合わせ、男女それぞれの強化担当ゼネラルマネジャーを配置し、新たに選手発掘から育成までの一貫した強化体制を構築するため、発掘育成委員

会を設置しました。

また、体罰・暴力の相談窓口を昨年 5 月 15 日に開設し、3 月末までに 70 件弱のご相談を受け、随時対応致しました。

当期決算については、当初予算は 34 百万円の赤字を見込んでいましたが、本会、関係団体、関係者の皆様のご協力を得ながら財政改善に取り組んだ結果、赤字を 9 百万円まで圧縮し、当初予算より 25 百万円の改善となりました。

今期は引き続き赤字決算となりましたが、前期の赤字 40 百万円からは 31 百万円改善することができました。

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行いました。

1) シニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度最大の目標であるワールドグランドチャンピオンズカップで、男子は 6 位、女子は銅メダルを獲得しました。このほか、男子はワールドリーグ 18 位、アジア選手権大会 4 位となり、世界選手権アジア最終予選で出場権を逃しました。

しかし女子はワールドグランプリ 4 位、アジア選手権大会で準優勝し、世界選手権アジア最終予選で出場権を獲得しました。

◆男子 国内合宿をナショナルトレーニングセンター（以下「NTC」という。）を主会場として 97 日間実施。

◆女子 国内合宿は NTC を中心に 97 日間実施。

海外合宿はスイス、イタリア、オランダ、アメリカ、トルコ、ポーランド、タイで 64 日間実施。

2) ユニバーシアード男子・女子日本代表チーム強化合宿

2013 年度に開催されたユニバーシアード大会（2 年に 1 回開催）で、男子は 3 位、女子は 5 位でした。そのほか、男子は 10 月に行われた第 6 回東アジア競技大会男子競技で準優勝し、女子はユニバーシアード直前に行われたエリツィンカップにおいて 5 位、10 月に行われた東アジア競技大会において準優勝しました。

◆男子 国内合宿を NTC ほかに 50 日間程度実施。

◆女子 国内合宿を NTC ほかに 27 日間実施。

海外合宿はロシア、中国にて 37 日間実施。

3) U-23 女子日本代表チーム

本年度の最大目標である世界選手権において銅メダルを獲得しました。

◆女子 国内合宿は NTC で 18 日間実施。

海外合宿はメキシコで 8 日間実施。

4) ジュニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標である世界選手権（2 年に 1 回開催）で、男子は 10 位、女子は銀メダルを獲得しました。

◆男子 国内合宿を NTC ほかに 22 日間実施。

◆女子 国内合宿を NTC ほかに 21 日間実施。

海外合宿はブルガリア、チェコにて 19 日間実施。

5) ユース男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標である世界選手権（2 年に 1 回開催）で男子は 17 位、女子は 5 位でした。

◆男子 国内合宿を NTC ほかに 15 日間実施。

◆女子 国内合宿を NTC ほかに 24 日間実施。

海外合宿はタイにて 13 日間実施。

6) ビーチバレーボール日本代表選手強化合宿

国際バレーボール連盟（以下「FIVB」という。）ワールドツアー出場と各種国際大会の日程調整を行い、効率的な強化合宿を実施しました。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) エリートアカデミーオーディション

小学校 6 年生男子・女子選手を対象に、バレーボールの経験有無によらず、長身者や高い運動能力をバレーボールで活かしたいと思う人材を全国から広く自薦、他薦で集め、トップレベルの指導スタッフによるオーディションを実施しました。

2) 全国選抜中学生強化合宿事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施しました。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言を行いました。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行いました。

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣しました。

4) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行いました。

- 5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行いました。
- 6) 日本開催の国際大会及びビーチバレーボールを含む主要国内大会で日本代表選手を中心にドーピング検査を実施しました。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として、以下の各大会に日本代表選手団を派遣しました。

1) シニア日本代表チーム

- ◆男子 ワールドリーグ（開催国・韓国、オランダ、フィンランド、ポルトガル、カナダ、日本、開催期間・6/1～7/7）18位

世界選手権アジア最終予選（小牧、9/4～9/8）出場権獲得ならず

ドーハ4カ国対抗(カタール、9/22-24)2位

第17回アジア男子選手権大会(ドバイ、9/28～10/6)4位

ワールドグランドチャンピオンズカップ（日本、11/17～11/24）6位

- ◆女子 モントルーバレーマスターズ（スイス、5/28～6/2）5位

アラッシオカップ（イタリア、6/7～6/9）4位

ワールドグランプリ（トルコ、ポーランド、日本、8/2～9/1）4位

第17回アジア選手権大会（タイ、9/13～9/21）2位

世界選手権アジア最終予選（小牧、9/4～9/8）出場権獲得

ワールドグランドチャンピオンズカップ（日本、11/12～11/17）3位

2) ユニバーシアード日本代表チーム

- ◆男子 第27回ユニバーシアード競技大会（ロシア、7/6～7/17）3位

第6回東アジア競技大会（中国、10/6～10/13）2位

- ◆女子 エリツィンカップ2013（ロシア、6/24～6/30）5位

第27回ユニバーシアード競技大会（ロシア、7/1～7/19）5位

第6回東アジア競技大会（中国、10/3～10/14）2位

3) U23 女子日本代表チーム

- ◆世界選手権大会（メキシコ、10/2～10/13）3位

4) ジュニア日本代表チーム

- ◆男子 第17回世界ジュニア選手権大会（U-21）

（トルコ、8/22～9/1）10位、6/30～7/4）2位

2013 東アジア地区選手権大会（チャイニーズタイペイ、6/30～7/4）2位

- ◆女子 ジュニア世界選手権大会（チェコ、6/21～6/30）2位

5) ユース日本代表チーム

- ◆男子 ユース世界選手権大会（メキシコ、6/27～7/7）17位
- ◆女子 ユース世界選手権大会（タイ、7/26～8/4）5位
- 6) ビーチバレーボール男女日本代表チーム
 - ・ワールドツアー（世界各地で4月～12月まで開催）14～18大会に派遣
- 7) ビーチバレーボールジュニアクラス男女日本代表チーム
 - ・ビーチバレーボール U21 世界選手権大会（クロアチア、6/20～6/23）
 - ・ビーチバレーボール U19 世界選手権大会（キプロス、7/11～7/14）
 - ・第27回ユニバーシアード競技大会（ロシア、7/6～7/17）

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB ワールドリーグ 2013

FIVB は毎年、その年の男子バレーボールの世界一を決める本大会を開催していますが、本年はインターコンチネンタル・ラウンド (Pool C / 第2週・第6週) を FIVB と協力して開催しました。

◆インターコンチネンタル・ラウンド (第2週)

開催期間：6月15日(土)、16日(日)

参加国：日本、フィンランド

開催都市：愛知県小牧市（パークアリーナ小牧）

観客数：6月15日(土) 2,530名（日本 対 フィンランド）

6月16日(日) 2,850名（日本 対 フィンランド）

◆インターコンチネンタル・ラウンド (第6週)

開催期間：7月6日(土)、7日(日)

参加国：日本、カナダ

開催都市：大阪府大阪市（大阪中央体育館）

観客数：7月6日(土) 2,450名（日本 対 カナダ）

7月7日(日) 3,000名（日本 対 カナダ）

◆順位：インターコンチネンタル・ラウンド (Pool C / 6チーム)

1位：カナダ 2位：オランダ 3位：韓国

4位：フィンランド 5位：ポルトガル 6位：日本（総合18位）

2) FIVB ワールドグランプリ 2013

FIVB は、アジアの女子バレーボールの発展を目的として、アジア地区で本大会を毎年開催していますが、本年は予選ラウンド (第3週) と決勝ラウンドを FIVB と協力して開催しました。

◆予選ラウンド (第3週)

開催期間：8月16日（金）～18日（日）
試合数：延べ6試合（日本戦含む1日2試合）
参加国：日本、アメリカ、チェコ、ブルガリア
開催都市：宮城県仙台市（仙台市体育館）
観客数：8月16日（金） 6,375名（日本対ブルガリア）
8月17日（土） 6,833名（日本対アメリカ）
8月18日（日） 6,450名（日本対チェコ）

◆決勝ラウンド

開催期間：8月28日（水）～9月1日（日）
試合数：延べ15試合（日本戦含む1日3試合）
参加国：日本、ブラジル、中国、セルビア、イタリア、アメリカ
開催都市：北海道札幌市（北海きたえーる）
観客数：8月28日（水） 4,000名（日本対イタリア）
8月29日（木） 5,000名（日本対ブラジル）
8月30日（金） 5,200名（日本対セルビア）
8月31日（土） 6,000名（日本対中国）
9月01日（日） 6,000名（日本対アメリカ）

◆順位：決勝ラウンド最終順位

1位：ブラジル	2位：中国	3位：セルビア
4位：日本	5位：イタリア	6位：アメリカ

※総合順位7位以下は省略

3) FIVB 世界選手権 2014 アジア男女最終予選小牧大会

2014年の世界選手権出場権（男子：ポーランド、女子：イタリア）を賭けた、FIVB 世界選手権 2014 アジア男女最終予選小牧大会をアジアバレーボール連盟（以下「AVC」という。）と協力し、日本で開催しました。

◆男子・女子同時開催

開催期間：9月4日（水）～9月8日（日）
試合数：延べ16試合
参加国：女子（5チーム）
日本、タイ、チャイニーズタイペイ、ベトナム、オーストラリア
男子（4チーム）
日本、韓国、カタール、ニュージーランド
開催都市：愛知県小牧市（パークアリーナ小牧）
観客数：9月4日（水）1,730名（女：日本対チャイニーズタイペイ）
9月5日（木）2,400名（男：日本対カタール）

4,300名（女：日本 対 ベトナム）
9月6日（金） 500名（※日本戦なし）
9月7日（土） 3,500名（男：日本 対 ニュージーランド）
5,000名（女：日本 対 オーストラリア）
9月8日（日） 4,700名（女：日本 対 タイ）
5,000名（男：日本 対 韓国）

◆男女順位：

女子：1位：日本、2位：タイ、3位：ベトナム

4位：チャイニーズタイペイ、5位：オーストラリア

男子：1位：韓国、2位：日本、3位：カタール、4位：ニュージーランド

※女子は、日本（1位）とタイ（2位）の2チームが出場権を獲得し、男子は、3戦全勝で1位となった韓国が出場権を獲得しました。全日本男子チームは出場権を逃しました。

4) ワールドグランドチャンピオンズカップ 2013

ワールドグランドチャンピオンズカップ 2013（4年に一度、オリンピックの翌年開催）をFIVBと協力して日本で開催しました。本大会は、世界各国が次のオリンピックへ向け新たにスタートさせたチームによる、最初の世界一決定戦でした。

◆女子大会

開催期間：11月12日（火）～11月17日（日）

試合数：延べ15試合（日本戦含む1日3試合）

参加国：日本、タイ、ロシア、アメリカ、ブラジル、ドミニカ共和国

開催都市：名古屋（日本ガイシホール）（12～13日）

東京（東京体育館）（15～17日）

観客数：11月12日（火） 6,500名（日本 対 ロシア）

11月13日（水） 8,000名（日本 対 アメリカ）

11月15日（金） 8,500名（日本 対 タイ）

11月16日（土） 10,000名（日本 対 ドミニカ共和国）

11月17日（日） 10,000名（日本 対 ブラジル）

◆順位：決勝ラウンド最終順位

1位：ブラジル 2位：アメリカ 3位：日本

4位：ロシア 5位：タイ 6位：ドミニカ共和国

◆男子大会

開催期間：11月19日（火）～11月24日（日）

試合数：延べ15試合（日本戦含む1日3試合）

参加国：日本、イラン、ロシア、アメリカ、ブラジル、イタリア

開催都市：京都（京都府立体育館）（19～20日）

東京（東京体育館）（22～24日）

観客数：11月19日（火） 3,760名（日本対ロシア）
11月20日（水） 4,370名（日本対アメリカ）
11月22日（金） 5,600名（日本対タイ）
11月23日（土） 10,000名（日本対ドミニカ共和国）
11月24日（日） 8,500名（日本対ブラジル）

◆順位：決勝ラウンド最終順位

1位：ブラジル 2位：ロシア 3位：イタリア
4位：イラン 5位：アメリカ 6位：日本

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣して世界のバレーボール界の発展に尽力し、国際的な貢献しています。本年度は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほか競技役員、審判員ほかを派遣しました。

2) AVC 東京オフィス代行事業

2013年10月に内閣府より認定を取得し、アジア地域のスポーツマーケティングおよびバレーボール開発途上国への支援に関する代行事業を開始しましたが、AVCからの支援規模縮小に伴い、事実上活動を保留しています。

3) バレーボールバンク事業 ※ (10) 社会貢献事業にも同一活動の内容を記載

世界総会の場で本企画のプレゼンテーションを実施し、認知度を高め、支援依頼者（国）からの依頼に早急に対応することで相互間の信頼関係を醸成し、寄贈対象となった各国のバレーボール協会（以下「NF」という。）との友好を継続的かつ円満に結び、連携強化を図る体制作りを構築するように努めました。

A. NF との友好実績

モンゴル・アフガニスタン・ネパール・タイ・コートジボワール・オセアニア諸国
10カ国・北朝鮮など

B. 寄贈実績 24件

寄贈ボール数 3,017個（2010年からのボール寄贈累計 4,082個の 73.9%）、ネット
3張を寄贈しました。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会（バレーボール教室）開催事業

1) バレーボールをやってみよう～Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

（参加者総数 1,881 名：男子児童 356 名、女子児童 780 名、保護者 745 名）

本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加するバレーボール教室を毎年各地で開催していますが、本年度は以下の 10 都道府県で実施しました。

北海道、茨城、神奈川、長野、富山、岐阜、広島、香川、熊本、鹿児島

2) バレーボールを上手になろう～全国小中一貫バレーボール教室

（参加者総数 864 名：選手 690 名、指導者 174 名）

前年度まで、別々に実施していた小学生と中学生対象のバレーボール教室の一部を統合し、本年度より小中合同のバレーボール教室を開催しました。統合の目的は、一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図るものです。本年度は、以下の 3 県で実施しました。

新潟県柏崎市、島根県松江市、京都府福知山市

3) 保育園等でのソフトバレーボール実践事業

（実施総数 16 カ所：小学校 9 カ所、幼稚園・保育園 7 カ所）

幼児期にソフトバレーボールを通じてスポーツの楽しさを伝える環境作りを行うとともにソフトバレーボール指導者の育成を目的としたモニター事業を展開しました。本年度はブロックごとの開催とし、以下の 16 都道府県で実施しました。

北海道、福島、千葉、山梨、新潟、富山、広島、山口、熊本（小学校）

北海道、秋田、富山、千葉、岡山、愛媛、鹿児島（幼稚園・保育園）

②指導者養成事業

小学生指導者ほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催しました。

1) 全国小学生バレーボール指導者講習会

（受講者総数 2,050 名：一次 749 名、二次 735 名、三次 566 名）

本会では、小学生の指導者を対象として第一次、第二次および第三次講習会（平成 24 年度より）を毎年各地で開催していますが、本年度は以下の 16 都道府県で実施しました。

北海道、山形、福島、栃木、東京、神奈川、新潟、大阪、京都、滋賀、岡山、山口、徳島、愛媛、佐賀、長崎

2) 全国中学生バレーボール指導者講習会（参加者数 345 名）

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者講習会を毎年各地で開催していますが、本年度は以下の 8 都道県で実施しました。

北海道、福島、千葉、山梨、静岡、奈良、広島、徳島

- 3) 小中一貫バレーボール指導者研修会兼全国中学生バレーボール指導者研修会
若年層の競技人口拡大のために、小中学生の指導者を育成する事業を展開しました。具体的には、小中学生の指導者が一堂に会して研修する機会を設け、一貫指導の充実とバレーボール人口の拡大を図ることを目的に、本年度は以下の3都県で実施しました。(参加者数 105 名)
石川、東京、沖縄
- 4) 小学校体育教材支援事業及び全国小学校ソフトバレーボール実践補助事業
昨年度より「ソフトバレーボール」の小学校体育科教材完全実施化に伴う支援事業を行っていますが、これに資するための小学校教員を対象としたネット型ボール運動「ソフトバレーボール」の冊子を作成準備し、研修会を開催しました。
- 5) 都道府県別バレーボール指導者研修会 (参加者数 841 名)
各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国 17 府県で開催しました。
青森、岩手、山形、宮城、茨城、群馬、静岡、岐阜、三重、京都、大阪、鳥取、島根、広島、佐賀、熊本、沖縄
- 6) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会 (参加者数 773 名)
ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に、東京ほか 16 都府県で開催しました。
青森、岩手、山形、栃木、埼玉、東京、長野、静岡、大阪、鳥取、広島、山口、徳島、愛媛、大分、沖縄
- 7) ビーチバレーボール指導者講習会 (参加者数 56 名)
ビーチバレーボール指導者を対象に、青森、広島で開催しました。
- 8) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、指導員・バレーボール専門科目資格取得講習会 (参加者総数 348 名：上級コーチ 22 名、コーチ 43 名、
(大学部員対象) 指導員 283 名)
日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を、東京・大阪で開催しました。
- 9) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会 (参加者数 86 名)
本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会 (公認講師研修会・スポーツ指導者研修会) を東京で開催しました。
- 10) ゴールドプラン関連事業
近年の競技人口の減少は憂慮する事態になっており、バレーボールの将来を考えると、緊急且つ最大の課題となっています。特に小学生、中学生が減少しており、その原因としては、少子化、スポーツのニーズの多様化、指導者不足等々、様々なことが考えられます。この課題には横断的・総合的に対処する必要があり、本会では

“ゴールドプラン”と称し、その中核となるプロジェクトチームを設立してこの課題に対して組織全体で取り組みました。

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催しました。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
A級審判員資格取得審査講習会	25.08.10～14	大阪府	78名
ビーチバレーボール特別A級審判員資格取得審査講習会	25.08.10～13	大阪府	15名
全国ビーチバレーボール審判講習会	25.04.13～14	川崎	42名
全国ラインジャッジ・クリニック	25.04.30～05.02	大阪府	45名
全国6人制審判講習会	26.03.23	東京都	227名
全国9人制審判講習会	25.04.07、26.03.30	群馬県、大阪府	146名/155名
ブロックA級審判員講習会	25.04～07	全国各ブロック	702名
Iスクール	25.08.14～08.31	大阪府他7会場	59名
ビーチIスクール	25.08.13～08.15	大阪府	2名
Vスクール	25.04.20～11.20	全国各ブロック	80名
技術統計上級判定員認定講習会	25.04.29、25.09.16	東京都	5名
競技会事前講習会	25.07～25.11	国内競技会開催地	268名
A級審判員研修会（6人制）	25.12.03～05 25.12.02～04	大田区体育館他 大阪中央体育館他	76名 61名
A級審判員研修会（9人制）	26.01.24～27 26.01.17～20	大阪府 京都府	25名 17名

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として、以下の資格の認定、登録を行いました。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボールリーダー
ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として、以下の資格の認定、登録を行いました。

A級審判員 A級候補審判員 B級審判員 C級審判員
レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定

の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定、登録を行いました。

技術統計判定指導員 技術統計上級判定員 技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は、昭和 25 年(1950 年)に全日本 9 人制選手権大会に下賜されて以来、平成 23 年までの 61 年間、日本国内最強のチームに授与されてきました。平成 19 年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な全日本選手権大会に生まれ変わりましたが、本年度はその 7 回目として、以下の日程で実施しました。

都道府県ラウンド：平成 25 年 4 月～8 月 各都道府県内体育館
(923 チーム・16,614 名参加)

ブロックラウンド：平成 25 年 9 月～10 月 各地域ブロック内体育館
(204 チーム・3,672 名参加)

ファイナルラウンド：平成 25 年 12 月 11 日～15 日 東京体育館
(48 チーム・864 名参加)

優勝チーム 男子：東レアローズ（静岡）
 女子：久光製薬スプリングス（佐賀）

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施しました。

都道府県大会 ：平成 25 年 4 月～7 月 各都道府県内体育館
(5,402 チーム・74,453 名参加)

全国大会 ：平成 25 年 8 月 13 日～16 日 東京体育館ほか
(都道府県代表 98 チーム・1,340 名参加)

なお、例年同様、大会と並行して各選手村（宿泊施設）
で教育活動を行いました。

優勝チーム 男子：東京杉一クラブ（東京）
 女子：大元（岡山）

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導

者の研修の場とすることを目的に、本年度は以下の日程で実施しました。

開催期間：平成 25 年 12 月 25 日～28 日

会 場：大阪府中央体育館ほか 2 会場（96 チーム・1,152 名参加）

優勝チーム 男子：東京、女子：大阪北

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として、本年度は以下の日程で実施しました。

開催期間：平成 26 年 1 月 5 日～7 日・11 日～12 日（1 回戦～決勝）

会 場：東京体育館（104 チーム・1,872 名参加）

優勝チーム 男子：星城高等学校（愛知）

女子：九州文化学園高等学校（長崎）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年度は以下の日程で男子・女子、大学日本一を決める本大会を実施しました。

開催期間：平成 25 年 12 月 3 日～8 日（男子大会）

会 場：大田区総合体育館ほか（123 チーム・2,214 名参加）

開催期間：平成 25 年 12 月 3 日～7 日（女子大会）

会 場：大阪府中央体育館ほか（64 チーム・1,152 名参加）

優勝チーム 男子：早稲田大学（東京）、女子：鹿屋体育大学（鹿児島）

⑥ビーチバレージャパン

ビーチバレーボールの日本一を決める全日本選手権大会として、本年度は以下の日程で実施しました。

平成 25 年 8 月 16 日～18 日 神奈川県藤沢市鵠沼海岸

（男子：51 チーム・102 名参加）優勝チーム：高橋・村上（推薦）

（女子：8 チーム・16 名参加）優勝チーム：尾崎・草野（推薦）

女子大会：平成 25 年 8 月 22 日～25 日 大阪府泉南郡岬町淡輪

（42 チーム・84 名参加）優勝チーム：溝江・西堀（推薦）

⑦前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施しました。

大会名等	実施期間	会場	チーム数	選手数	優勝チーム
全日本⑨実業団女子選手権大会	25.07.18～21	岐阜県大垣市	25	450	富士通テン（兵庫）
全国ママさん大会（⑨）	25.08.02～05	埼玉県 さいたま市	48	864	隼人（鹿児島）、柘野体振（京都）、朝日クラブ（島根）、福田クラブ（兵庫）
全日本⑨実業団男子選手権大会	25.07.19～22	和歌山県 和歌山市	64	1,152	中部徳洲会病院（沖縄）
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	25.08.08～11	茨城県 ひたちなか市	56	1,008	佐伯長陽会 I・O（大分）
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	25.08.09～12	大阪府大阪市	64	1,152	群雄会（静岡）
全国⑨社会人東ブロック男女優勝大会	25.10.11～14	福井県福井市	37 24	666 432	男子：NO NAME（埼玉） 女子：日本体育大学（東京）
全国⑨社会人西ブロック男女優勝大会	25.11.08～11	高知県高知市	37 24	666 432	男子：富永（長崎） 女子：田中外科（宮崎）
全日本⑨総合女子選手権大会	26.01.17～20	京都市	52	936	パナソニックエナジー（大阪）
全日本⑨総合男子選手権大会	26.01.24～27	大阪市	60	1,080	中部徳洲会病院（沖縄）
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	25.05.01～06	大阪市	32	576	男子：サントリーサンバーズ（大阪） 女子：久光製薬スプリングス（佐賀）
全日本クラブカップ男子選手権大会	25.08.01～04	北海道苫小牧市	56	1,008	岐阜クラブ（岐阜）
全日本クラブカップ女子選手権大会	25.08.15～18	宮崎県 東諸郡綾町	50	900	CLUB EHIME（愛媛）
全国ヤングクラブ優勝大会	25.09.21～22	大阪府門真市・ 大阪市	108	1,944	Winds（京都）長岡 Jr.（新潟）徳島ヤングクラブ（徳島）ハートエンジェルス（埼玉）
以上⑨は9人制大会、その他は6人制大会					
全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	25.08.09～11	神奈川県 平塚市	24 24	48 48	男子：了徳寺大学 A（千葉） 女子：神戸学院大学 A
全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	25.08.09～12	大阪府阪南市	52	156	中川・齋藤（大阪）
全日本ビーチバレージュニア女子選手権大会	25.08.08～11	愛媛県伊予市	47	94	北村・若井（京都）
全国中学生ビーチバレー大会	25.08.17～18	神奈川県 藤沢市	24 30	96 120	男子：大和・ユウ（広島） 女子：明治3号（神奈川）
全国ソフトバレー・ファミリーフェスティバル	25.08.09～11	佐賀県嬉野市	33	297	ユアアイクラブ（愛知）、OTTO（大分）、なかよし兄弟姉妹（大阪）、福岡キャッツ（福岡）、西条クラブ（愛媛）、八ヶ岳レインボーズ（長野）
全国ソフトバレー・シルバースフェスティバル	25.10.18～20	香川県 東かがわ市	54	432	50歳以上：宮義工業（沖縄）阿佐谷クラブ（東京） 60歳以上：とびうめ福岡（福岡）
全国ヴィンテージ8'S交流大会	25.10.11～13	北海道帯広市	36 5	540 75	50歳以上：宮義工業（沖縄）阿佐谷クラブ（東京） 60歳以上：とびうめ福岡（福岡）

⑧ 本会、公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施しました。

1) 国民体育大会・スポーツ祭東京 2013

バレーボール競技【正式競技】

日程・平成 25 年 9 月 29 日～10 月 2 日 開催地・東京都立川市ほか

優勝チーム 成年男子：愛知県、成年女子：山形県

少年男子：愛知県、少年女子：東京都

ビーチバレー競技【公開競技】

日程・平成 25 年 9 月 13 日～15 日 開催地・東京都神津島村・新島村

優勝チーム 成年男子：埼玉県・東京都 成年女子：東京都・福岡県

※天候の事情により決勝戦ができず、2 チーム優勝

2) 日本スポーツマスターズ 2013

日程・平成 25 年 9 月 14 日～17 日 開催地・福岡県北九州市ほか

優勝チーム 男子：岡山クラブ（岡山）、女子：栄クラブ（静岡）

⑨本会、公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施しました。

1) 全国高等学校総合体育大会男子競技

日程・平成 25 年 8 月 3 日～8 月 7 日 開催地・福岡県飯塚市ほか

優勝チーム 男子：星城高等学校（愛知）

2) 全国高等学校総合体育大会女子競技

日程・平成 25 年 7 月 28 日～8 月 1 日 開催地・福岡県久留米市ほか

優勝チーム 女子：東九州龍谷高等学校（大分）

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程・平成 25 年 8 月 6 日～10 日 開催地・神奈川県平塚市

優勝チーム 男子：横浜修悠館（神奈川）、女子：桐ヶ丘（東京）

⑩本会、公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施しました。

全日本中学校選手権大会（男女大会）

日程・平成 25 年 8 月 18 日～21 日 開催地・愛知県岡崎市ほか

優勝チーム 男子：駿台学園中（東京）、女子：裾花中（長野）

(5) マーケティング事業

公益目的事業を安定的に推進すべく、バレーボールの社会的な価値や本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動を行いました。特に、オリンピック開催翌年度に当たる今年度

はオフィシャルサプライヤーとの契約を更新し、中期的な安定財源を確保しました。また、本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないよう適切な管理運営を実施するとともに、日本代表選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努めました。

(6) バレーボール用品・用具の公認及び公認物品販売事業

競技の公正、安全など競技者が安心して楽しくプレーできるようにボール、ネット等の用品・用具の検定及び認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へより良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者へ働きかけを行いました。

公認審判員・判定員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨し、また、JVA 関係者を対象に「JVA バッジ」の販売を開始しました。

(7) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール 6 人制競技規則、同 9 人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則の出版販売を行いました。また、購入者がより購入しやすい方法として、インターネットによる販売を行い、浸透・定着してきています。

(8) V リーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構が主催する V リーグについて、東京における開催権を取得し、バレーボールの普及、振興に合わせ、本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催しました。

(9) 地域グループ育成強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会等に交付金を交付することで、加盟団体が行う公益目的事業の遂行や団体管理運営に必要な経済的支援を行いました。

(10) 社会貢献事業

①ボール、バレーボール用具の収集事業 ※ (2) バレーボールバンク事業にも同一活動の内容を記載
活動名称：バレーボールバンク活動の認知を高める広報活動事業を行いました。

1) JVA 主催大会会場でのブース展開 (リーフレット配布、パネル、ポスター、バナーの掲出、プロモーションビデオの上映など)、及びバレーボールバンク公式ホームページでの活動報告、バレーボールバンク関連 SNS ツールを活用しました。

- 2) 広報活動を実施した JVA 主催大会 (3 大会にて実施)
 - ・天皇杯・皇后杯全日本選手権大会
 - ・第 27 回全国都道府県対抗中学大会
 - ・第 66 回全日本高等学校選手権大会
- 3) 効果 収集ボール数 1,419 個 (2010 年からの累計 5,413 個の 26.2%)

②環境問題

- 1) 地球温暖化防止の国民運動を受けて、本会が主催するすべての全国大会の会場のバナーおよび大会プログラムへ活動内容を掲出し、地球温暖化防止に協力しました。
- 2) 各種事業（競技会・講習会等）にてゴミの分別を行いました。
- 3) 12 月に開催されました天皇杯・皇后杯において株式会社音力発電様のご協力により来場者の方に、音や振動から発電が手軽にできることを伝えることができました。

以上